

教養教育の在り方について
～未来を切り拓くことのできる力を育成する弘前大学～

平成 25 年 7 月 22 日

社会の急激な変化の中、個人にとっても社会にとっても将来の予測が困難な時代を迎えている。このような時代にあって、未来を見通し、これからの社会を担い、未知の時代を切り拓くことのできる学生を育成することが本学の責務である。さらに、グローバル化が加速するとともに、活力ある地域の形成も求められている現代にあっては、世界規模の視点を持ちながら、同時に地域の未来を担ってゆく人材の育成も急務である。

このような人材を輩出してゆくため、弘前大学で学んだという誇りを胸に、地域で、また世界で活躍できるよう、学びの質的転換を図り、学生の間人基礎力を育成する教養教育を目指してゆく。

○弘前大学人としての Identity の醸成 ～Challenge with definite pride～

弘前大学を巣立つ学生には、本学で育んだ能力への揺るぎない自信と誇りを胸に、自身の可能性に挑戦し続け、社会で大いに活躍してほしいと強く期待するが、その根底をなすものは弘前大学に対する深い理解と愛着である。このため初年次教育では、弘前大学が長年にわたって紡いできた「知」の歴史を理解し、弘前大学人としての identity を醸成する。

○人間基礎力の育成 ～Cultivate global mind～

将来、学生が自らの能力を縦横無尽に発揮し、有意な人材として社会で活躍するための基盤となる力の育成が不可欠である。すなわち、自分が生まれ育った地域であれ、広く海外にその活躍の場を求めるのであれ、あらゆる事象をグローバルな視点から捉えると同時に、それぞれに与えられた「場」を基盤としながら果敢に未来を切り拓こうとする意欲・態度・能力を涵養することが求められる。このため初年次教育では、これら「人」としての力の源泉となる「人間基礎力」を育成する。

○学びの転換 ～How to solve diverse problems～

正解のある問題をいかに解いていくかという「学び」から、自ら問題を発見し考え、解を求め続ける「学び」へと質的な「学びの転換」を図ることが強く求められる。初年次教育は、学生にこの転換を促す最初の契機である。そのため、授業とともに学修環境そのものを、学生と教員、学生と学生が相互に刺激し合い知的に成長する「能動的学修（アクティブ・ラーニング）」の「場」として創造し、主体的に考える姿勢を育成する。